

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3610126124		
法人名	医療法人 松岡会		
事業所名	山城第一グループホーム		
所在地	徳島市山城西1丁目182-3		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年12月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は、1ユニット6名であり、少数ですので家庭的な空間を目指しています。利用者とのコミュニケーションが取りやすく、レクリエーション、行事等利用者に寄り添って行っています。近くには、学校や公共施設があり、行事があれば見学に行かせて頂いています。近くのスーパーには、買い物に行ったり、散歩に行ったりと地域へ出かけて行くよう心がけています。又、医療機関と併設しているので、体調の悪い時など、医療と連携した対応が迅速にできる体制をとっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、同一法人の運営する医療機関と同じ建物の3階に位置し、日頃から医師や看護職員との連携によって、健康管理を密に行うことができる体制を整えている。併設事業所の理学療法士と連携して、自立に向けた支援を行っている。職員は、日頃から利用者の意思を尊重し、できるだけ自己決定によって生活してもらえよう支援している。事業所内は、季節に応じた飾り付けを行い、温かな雰囲気の中で利用者と職員がともに生活している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示しており、毎朝の申し送りの際に唱和し日々、心がけている。	事業所は、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。職員は、毎朝の申し送り時に理念を唱和し、意識の統一を図っている。理念に立ち返りながら、利用者の尊厳と気持ちを大切に、日頃のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの文理大、アステイ等で行事のある時は見学に行ったり、スーパーに買い物に行ったりしている。デイケアと併設しているので、行事等は参加させて頂いている。散歩も随時行っている。	事業所では、近隣のスーパーに買い物に出かけたり、近隣の大学の学園祭や催し物に参加したりしている。事業所の敬老会には、近隣の幼稚園児を招き、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で家族、地域の方の理解を得られるように取り組んでいる。地域の文化祭への作品の出品を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の生活状況。グループホームの取り組みを報告し、意見交換をし、意見を頂いたり、情報を頂き、それを取り入れることによりサービスの向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、利用者の状況や行事について報告し、出席者から近隣の情報を得て、意見交換を行っている。2回に1度は、同一法人の運営する同グループホームと合同で開催し、協力歯科医による講話を行うなど、情報共有を図っているが、利用者家族の出席は得られていない。	会議には、地域の民生委員の出席を得ているが、さらに地域から構成員を増やし、外部の人々や利用者家族、地域の理解や支援を得ることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回ながいき課に出向いている。顔馴染みの関係を作り、実績報告を行い、協力関係を築いている。	職員は、毎月、市の担当窓口を訪問し、事業所の状況や利用者の状況報告の書類を提出している。担当者から助言や指示を受けるなど、日頃から顔の見える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを全職員が把握し、勉強会を行い、職員全員が身体拘束をしないケアに努めている。	事業所では、身体拘束廃止に関するマニュアルを作成している。職員には、身体拘束に関する研修の機会を設け、理解を深めている。管理者は、日頃から利用者の行動や情報について職員の意見を確認し、利用者の自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを全職員が把握し、勉強会を行い、全職員が虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人の制度を利用している利用者はいないが勉強会にて制度についての理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解除時には十分説明し理解を得ている。どんな些細なことでも納得して頂けるよう努めている。又、契約頂いた後も、質問等には対応して、理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来所した際には、職員が声掛けをし、意見や要望を言っていただけよう努めている。又、目につきやすいところに意見箱を設け自由に投稿できる様にしている。意見・苦情があった場合は解決するよう努めている。	職員は、家族の来訪時に、利用者の生活の様子や心身の状況を伝えたり、これまでの生活歴を聞いたりして、意見や要望を確認している。出された意見等は、職員間で共有し、運営面に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時の時に職員からの意見や提案を管理者が聞き、それを月1回開催される責任者会議の場で代表者に伝え反映している。	管理者は、ミーティングや申し送りの機会を利用して、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、3か月に1回、同一法人の運営するグループホームの管理者による会議を開催し、管理者から事業所の現状に基づく意見や要望を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の意見、不満等を聞き入れてくれ、常に代表者と職員が話し合いが持てる環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、外の研修、勉強会に参加し、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での研修に参加し、他事業所の方々と情報、意見交換しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、コミュニケーションをとり信頼関係を築いている。利用者様からの意見、要望等はゆっくり傾聴し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時より家族の困っている事、不安な事等親身になって聞き入れ、その都度、傾聴し、相談し、説明し、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面談し、家族様とも相談し、「何が必要か」を見極め事業所として出来る限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のペースに合わせコミュニケーションを取りレクリエーションの時には共に笑い合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が相談しやすく、また、職員に声掛けしやすい環境作りに心がけ、共に利用者様を支えていくことに理解を得られるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者・家族様より今までの生活歴をきき、馴染みの人、場所等に出かけられるよう家族様と連携し支援している。	事業所は、利用者の友人や知人の来訪を快く受け入れている。友人や知人との絵手紙のやりとりを支援するなど、これまでの馴染みの人や場所との関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの役割、居場所作りに心がけ利用者様同士が支え合える環境作りに努めている。回想法や懐かしい歌を歌い共に楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し病院へ転院された利用者様の経過を見に行き、本人・家族様ともこれまでの関係性を大切にしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の意向や要望は、日々のコミュニケーションの中で職員がきき、家族様にも意見を頂き職員全員で検討している。	職員は、利用者一人ひとりとの日頃の関わりの中で、些細な言葉や表情から、利用者の思いや意向の把握に努めている。家族から利用者の生活歴や好みなどを聞き、職員全体で共有している。利用者の自己決定を促し、利用者の意向を大切にしながら支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴を大切にし、得た情報は職員全員で周知し徹底に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態や生活リズムに合わせた支援に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス、毎朝の申し送り、又、家族からの意見やアイデアを反映し、介護計画を作成している。	事業所では、利用者や家族の意見や併設事業所の理学療法士や看護師の意見を取り入れ、介護計画を作成している。定期的な介護計画の見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じて見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を個別記録・申し送りノートに分りやすく記入し、介護計画の見直しに反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイケアと併設しているため、レクリエーション、行事等状況に応じて参加したり、月1回ボランティアによる散髪等柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の希望により、家族様の協力のもと、散歩、外食、公共施設での催しの見学等に出かけられるよう支援している。運営推進会議では民生委員、包括センターの方に参加してもらい、意見を聞かせてもらっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体であるクリニックが併設しており、医師、看護師と連携が取りやすく、緊急時の対応体制は整っている。定期的な他科受診は、家族と連携し個別の受診体制を確保している。	事業所では、契約時に、利用者と家族に希望するかかりつけ医を確認している。現在は、全ての利用者が同一法人の運営する医療機関での受診を希望している。専門医の受診には、家族の協力を得たり、職員が同行したりして、連携を図りつつ、適切な医療の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理を行い、常に介護職員が相談、報告をし、指示、助言を頂いている。医師との連携役も担って頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、様子を見に行き医療関係者と情報交換や相談に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した時、看取りに関する同意書、事前確認書を頂いており、状態変化がある時に医師、看護師に報告し、医師、看護師、職員で話し合い、家族に医師より十分に説明を行う。又、状態変化にはその都度、家族に報告している。	事業所は、契約時に、利用者や家族に重度化した場合や終末期の事業所の方針について説明し、意向を確認している。看取りを希望する場合には、家族や医師と連携を図りつつ、ミーティングで対応を協議している。看取り後には振り返りのカンファレンスを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生及び緊急時マニュアルを作成している。勉強会でもマニュアルの確認し勉強している。夜間は、医師、看護師への体制は整っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難場所を廊下に掲示し常に目のつくようにしている。非常用の非常食、飲料水を備蓄している。	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。事業所周辺で想定される災害を把握し、非常食や飲料水、必要物品を備蓄し、災害時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の自尊心を尊重し、プライバシーを損ねない様に声掛けを行っている。	職員は、利用者一人ひとりの意見を尊重した声かけや支援に努めている。気になる職員対応があれば、そのつど職員間で注意を促し、利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、一人一人の利用者が自己決定しやすいよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースに添って見守り、体調に配慮しながら利用者様の希望に添えるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が着たい洋服を選んでもらったり、職員が希望の化粧品を購入している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に作ることは、難しい。職員も同じテーブルで和気あいあいと食事をしている。又、お膳拭き等後片付けを手伝って頂いている。	昼食と夕食は外部から配送されている。事業所内で、利用者が食べやすいように食事形態の調整や、汁物の再加熱を行っている。利用者と職員は、ともに会話を楽しみながら、食事をとっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックしている。個々に応じて、一口大、刻み、ミキサー食、お粥と対応している。食事量が少ない方には、院長の指示により栄養補助食品をとって頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、介助を行っている。就寝時には義歯洗浄剤を使用し清潔をたもてる様支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけやさりげない誘導による支援を行っている。居室内にポータブルトイレを設置し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた、運動を行い、牛乳の飲用、水分の確保、腹部のマッサージを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はだいたい決まっているが、希望があれば入浴できるよう支援している。入浴を拒否した時には、清拭、足浴で対応している。	事業所では、少なくとも週2回、入浴できるよう支援している。それ以外にも利用者の希望があれば、利用者の心身状態に合わせてシャワー浴や足浴、機械浴等、個別の対応も行っている。季節に応じてゆず湯を用いるなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調によって、日中、レクリエーション等に参加して頂き、夜間は安眠して頂くよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ケースに整理し、職員が内容を把握できる様になっている。服薬介助、服薬確認を行っている。薬局とも連携し、薬が変更になった時には報告を頂いている。又、服薬して症状の悪化があった時には、医師に報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様、家族様から聴き取り、日々の生活の中からその人に合った役割、楽しみを見つけて支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に近所に散歩にだ掛けたり、買い物に行ったり、利用者様からの要望で外出に出かけている。	事業所では、近隣のスーパーで買い物をしたり、車両を利用して外食に行ったりしている。また、地域の文化祭など、近隣でイベントがあった際には、利用者が戸外に出かける機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様からの預かり金を事務所で管理している。家族様と相談し利用者様が所持している方もいる。職員と一緒に買い物等に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	グループホーム内がかかってきたり、かけたりは自由に使用して頂けるよう支援している。又、携帯電話を所持する事も可能としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、和室、廊下に季節により飾り付けを行い、季節感を感じてもらえるようにしている。共有スペースが狭いのでアットホームな感じを心がけている。	リビングや廊下には、季節の飾りつけや、行事の際の写真を掲示している。季節感のある明るく温かな環境を作っている。利用者がゆったりと寛ぐことができるよう、ソファの配置にも工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にテレビがありテレビを見たい方、個室では一人でいられる居場所もあり、利用者様の思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごして頂くために、慣れ親しんだ物を持って来ていただいたり、飾ったりして頂いている。	居室には、利用者の馴染みの家具を持ち込んでもらっている。ベッドやクローゼット、ソファは備え付けてあり、家族が来訪した際にも活用している。利用者の個性を活かし、安心して暮らすことができる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、和室、浴室には手すりがあり、安全確保と自立への配慮を支援している。		